

# 第5章 快適で活気にあふれ、環境にやさしいまち

## (1) 豊かな自然環境を維持・向上し、うるおいあふれるまちをめざします

### ①河川・ため池の保全と活用

#### 基本的方向

都市化の進行による農地の宅地転用などによって、土地のもつ保水能力や遊水機能が低下したために雨水の流出量が増加する傾向が続くとともに、集中豪雨による浸水被害が生じやすくなっており、河川の役割が重要になっています。

洪水や浸水の被害を防止するため、準用河川をはじめ中小河川、排水路についても、防災面や環境面に配慮した整備および管理をおこない、安全でうるおいのあるまちづくりを推進していきます。

ため池は農地にかんがい用水を安定的に供給し、かんばつによる農作物の被害を少なくするという重要な役割を果たすとともに、降雨時の一時的な出水量の増大に際して貯水するという点で地域防災上も重要な役割を果たしています。このことから、ため池の環境面にも配慮しながらその耐震性の向上や防災活用について調査・検討をおこない、改修などを推進していきます。

#### 施策

##### 1) 河川の整備

防災や環境面に配慮した河川の維持改修をおこなうとともに、河川の管理を適切におこないます。

##### 2) 排水施設の整備

市街地における雨水排水が困難な箇所について、農業用水路の整備などと整合を図りながら、浸水被害防止のための排水施設の整備とその適切な管理・運用を進めます。

##### 3) ため池の保全と活用

ため池の耐震性向上やため池の防火用水としての機能も含めた防災活用についての調査・検討をおこない、経年劣化したため池の計画的な改修を進めるとともに快適で安全な環境づくりを進めます。

#### 4) 河川、ため池の水質の保全

未処理のまま排出される生活排水により、河川やため池の水質が汚濁することを防止するために、下水道の整備や単独浄化槽等から合併浄化槽への改造を推進します。

## ② 森林の保全と活用

### 基本的方向

森林は、炭酸ガスの吸収による地球温暖化防止の効果、緑による地域環境への貢献、土砂災害を防止する機能、レクリエーション活動の場の提供など多様な働きをもつ空間です。

「※市民意識調査」では、回答者の 48.8%が泉南市に住み続けたい第1位の理由として「山や海岸、農地など、自然環境が身近にある」をあげており、森林をはじめとする自然空間は市民のやすらぎの源のひとつとなっています。

泉南市の山間部には、農業公園や堀河ダム周辺、紀泉わいわい村などの森林空間を活用した豊かな資源があることから、今後ともこれらの森林を保全するとともにレクリエーションの場として展開していきます。

また※<sup>さとちさとやま</sup>里地里山は、生物の生息・生育環境として、また食料や木材など自然資源の供給、良好な景観、文化の伝承の観点からも重要な地域であることからその保全を推進します。

### 施策

#### 1) 森林レクリエーションの振興

農業公園の充実や堀河ダム周辺の清掃、山地美化キャンペーンなどを今後も実施し、レクリエーションの場としてさらに充実していきます。

#### 2) 里地里山の保全

山や森林の保全に取り組むNPOなどと協働し、※里地里山の保全と活用を推進していきます。

## ③ 公園・緑地の整備

### 基本的方向

公園・緑地は、市民の憩いと交流、自然とのふれあいの場の創出、防火・避難地など防災空間としての働き、またうるおいのある都市景観形成への寄与や健康づくりの場としての利用など、さまざまな機能を有しています。このため、公園・緑地の整備

を推進するとともに、市民などが主体となった維持管理体制の充実を図ります。

また、2005年（平成17年）にオープンした農業公園「花咲きファーム」では、2011年（平成23年）からバラ園（イングリッシュ・ローズ・ガーデン）の整備に着手しました。農業公園は泉南市の重要な観光資源のひとつであるとともに市民が身近に自然を体験できる場所であることから、今後さらなる魅力づくりに取り組みます。

## 施策

### 1) 公園・緑地の整備

市民にうるおいのある都市環境を提供するとともに、防火・避難などの防災空間を創出するため、公園・緑地の整備を推進します。

### 2) 農業公園の充実

今後バラ園をさらに充実し、観光資源としての機能を高めます。

### 3) 公園・緑地の維持管理

身近な公園について、清掃・除草など市民がボランティア活動として取り組む自主的な公園管理活動を支援します。

## (2) 活気にあふれるとともに快適で美しく、市内・市外がネットワークで緊密に結ばれ、だれもが使いやすいまちをめざします

### ①道路の整備

#### 基本的方向

道路は人の移動や物資の輸送など日常生活に不可欠な最も基礎的な社会基盤であり、都市の骨格を形成するほか、さまざまな役割を担っています。

これまでの道路整備によって、広域幹線道路では海岸線と平行して走る府道泉佐野岩出線、市域内幹線道路では尋春橋<sup>じんしゅん</sup>や樽井大橋などが整備されてきました。

今後も引き続き地域内外の交流や連携を高めていくため、広域幹線道路の整備を促進します。

また、市域内幹線道路についてネットワークの形成を図り、地域間の連絡強化に努めるとともに、生活道路の整備をおこない、良好な交通環境づくりを推進します。

さらに、本格的な少子高齢社会の中で、すべての人びとが安全で安心して利用できる道路空間となるよう、\*ユニバーサルデザインなどに配慮した整備に取り組みます。

#### 施策

##### 1) 幹線道路の整備

大阪と和歌山の府県間を結ぶ広域幹線道路の整備を促進するとともに、泉南市内の主要拠点を結び、市域の骨格となる市域内幹線道路の整備を推進します。

##### 2) 身近な道路の整備

日常生活に密着した生活道路の利便性と安全性の向上を図るため、狭い道路の拡幅などをおこないます。

##### 3) 橋梁などの整備

老朽化した橋梁などの調査に基づき、適切な処置による長寿命化を図ることで合理的な維持管理をおこないます。

### ②バスの利用促進

#### 基本的方向

市民のより快適な移動手段を確保するために、2002年（平成14年）から泉南市で

はさわやかバスの運行を開始し、これまでにバス台数、路線数ともに強化してきました。利用者数は、2005年度（平成17年度）92,058人、2010年度（平成22年度）127,264人で、着実に伸びてきています。

今後、市民の高齢化がさらに進行することに合わせて、市民ニーズを見きわめつつ、今後ともさわやかバスの充実を図ります。

## 施策

### 1) 路線の充実と車両の増強

市民の利便性の向上のため、バス路線の充実と車両の増車を図ります。

## ③上水道の充実

### 基本的方向

簡易水道については、水質の悪化や水量の減少などの課題があり、これらを解決するために、給水区域の拡張と上水道施設との統合を図ります。上水道区域についても、大阪広域水道企業団（旧大阪府営水道）水への受水切り替えに取り組みます。

また、災害時に強い水道をめざし老朽管の更新をおこないつつ、耐震化についても事業を推進してきました。水道施設全体のコンパクト化や通信システムの再編も進め、今後とも安全で安定した給水網の維持・整備を図ります。

## 施策

### 1) 簡易水道の統合

施設の効率化を図りつつ、簡易浄水区域を上水道区域に統合します。

### 2) 企業団水への切り替え

自己水から高度処理化された企業団水に切り替え、安定的で安全・低廉な給水を図ります。

### 3) 上水の合理的な配分

各配水ブロックを合理的に配置し、送水・配水ポンプなどの能力の効率化を図ります。

### 4) 設備の更新

老朽化した水道管を更新し、水資源の有効利用をめざします。

### 5) 情報通信システムの構築

各浄水場・配水場からの通信機能を高め一元管理をおこなうことにより、事故など

の早期発見と安定給水を図るとともに組織のスリム化をめざします。

## ④下水道整備の推進

### 基本的方向

公共下水道の普及率は、2004年（平成16年）49.8%であったものが、2009年（平成21年）51.7%で、その伸びは鈍化しています。

公共下水道の未整備区域では、生活排水が未処理のまま用水路や排水路に流れ込むため、排出先の周辺地域や下流域にあたる地域では水質汚濁による生活環境の悪化や農作物への影響が生じており、下水道整備の要望が強くなっています。

生活排水などの汚水を適正に処理して公共用水域の水質を保全し、公衆衛生の向上を実現するため、公共下水道の効率的な整備を進めるとともに水洗化の促進を図り、清潔で快適なうるおいのあるまちづくりを推進します。

また、近年集中豪雨などが増加していることから、概成している雨水幹線などを適切に管理、改善し、その能力を十分に発揮することによって浸水被害の防止を図り、安全で安心できるまちづくりを推進します。

### 施策

#### 1) 下水道の整備

汚水の整備区域を拡大し、効率的な整備をおこなうことで普及率の向上を図るとともに、水洗化の促進を図ります。また、概成している雨水幹線の取り込み口の維持管理と改善を適切におこないます。

## ⑤市営住宅の整備

### 基本的方向

まちづくりのさまざまな面において高齢者や障害のある人などへの配慮が不可欠となっています。

しかし、既存の市営住宅には建設から年数がたち、建物の老朽化が激しいものや、高齢者などの生活には不便があるものもあります。このため、老朽化した市営住宅の今後のあり方を検討した住宅の「長寿命化計画」に基づき、適切な予防保全を実施するとともに、だれもが快適で住みやすい、\*バリアフリー化された住宅の供給を推進します。

**施 策****1) 市営住宅の建て替え**

高齢者や障害のある人にとっても快適で使いやすい※バリアフリー化された住宅を供給します。

**2) 市営住宅の維持管理**

市営住宅の改修整備を推進し、耐震化と長寿命化を図ります。

**⑥市街地整備の推進****基本的方向**

泉南市の玄関口である JR 和泉砂川駅周辺のにぎわい創出のため交通処理機能の強化、公共交通機関との円滑な接続、※バリアフリー化への対応などを図り、だれにもやさしく快適な交通結節点としての機能を充実します。また、その他の鉄道駅周辺についても、だれもが安全に安心して利用できる環境の形成促進を図ります。

**施 策****1) 和泉砂川駅周辺整備**

JR 和泉砂川駅周辺について、交通結節機能の向上のための駅前広場の新設や高齢社会に対応した道路などの公共施設の整備を図るとともに、空閑地の高度利用と商店街の活性化を誘導します。

**2) 鉄道駅舎のバリアフリー化**

南海電鉄樽井駅と JR 新家駅について、駅の改札口から各プラットホームまでを結ぶ経路を※バリアフリー化するとともに、この経路と駅構内の施設・設備が一体的に利用できるように※バリアフリー化を促進します。

**⑦景観の形成****基本的方向**

魅力的な景観は、生活環境にうるおいと安らぎを与えてくれるとともに、地域の個性的な景観は訪れる人びとに地域の魅力を感じさせ、交流の促進にも大きな役割を担います。このことから、国においても景観形成を国政上の重要課題として位置づけ「景観法」（「都市、農山漁村等における良好な景観の形成を促進するための法律」）が 2004

年（平成 16 年）に施行されました。

泉南市においても景観のもつ役割を認識し、歴史文化的景観や自然景観の保全のみならず、建築デザインや屋外広告物、緑化等について、良好な景観形成に向けた取り組みを促進します。

## 施 策

### 1) 景観行政団体への移行

多彩で魅力的な景観の創出に向けて、景観法に基づく規制・誘導等を活用した景観まちづくりをおこなうため、\*景観行政団体への移行を推進します。

### 2) 地区計画、建築協定の活用

市民と行政が協力して地区計画の策定や建築協定の締結に取り組み、まちなみ景観の向上を図ります。

## ⑧火葬場の整備

### 基本的方向

泉南市の火葬場は 2 か所あり、随時点検補修等に努めてきましたが老朽化が進んでいます。このため、新しい火葬場の建設を推進します。

## 施 策

### 1) 新火葬場の建設

広域的連携により、近代的な火葬場の建設をおこないます。

## ⑨関西国際空港を中心とした広域ネットワークの構築

### 基本的方向

関西国際空港は、2012 年（平成 24 年）7 月、大阪国際（伊丹）空港との経営統合を契機として、首都圏空港と並ぶわが国の国際拠点空港としての再生と強化を図るため、今後、国際競争力の強化とともに、国際貨物ハブ空港および\*LCC 拠点としての機能強化など、最大限その特性を活かした取り組みが進められています。

泉南市は、国際空港を有する都市として、関西国際空港を中心とした広域交通の結節点となるべく、近隣府県および市町村と連携して広域交通ネットワークの構築に取



り組みます。

また、関西国際空港が海上空港であることに起因するリスク、特に地震による津波やテロなどによる空港島の孤立化を防止し、緊急時における空港機能を確保するため、現在一本の連絡橋で接続している空港アクセス機能の脆弱性を認識し、複数のアクセスルートの必要性を訴えるとともに、代替アクセスとして南ルートの早期実現に向け、積極的な活動を展開していきます。

## 施 策

### 1) 広域交通ネットワーク推進活動の促進

関西国際空港を中心とした広域交通ネットワークを充実するため、近隣府県および市町村と連携、協力して、府県間道路をはじめとする広域アクセス網の早期整備を求める要望活動を促進します。

### 2) 関西国際空港連絡南ルート早期実現の活動推進

海上空港に起因するリスクによる空港島の孤立を防ぐため、リスクマネジメントの観点から代替アクセスとなる南ルートの早期実現を訴え、実現要望および広報活動を積極的に展開していきます。

### **(3) 日常生活や事業活動などにおいてすべての市民・事業者が資源・エネルギーの利用などに配慮し、環境に負荷をかけないまちをめざします**

#### **①資源・エネルギー有効利用の推進**

##### **基本的方向**

環境・エネルギーについては、これまで国をあげて地球温暖化の防止に取り組んできました。一方で、東日本大震災による原子力発電所の事故が発生し、エネルギーのあり方が根本から再考されようとしています。このようななか、泉南市としても安全なエネルギーのあり方について検討し、その導入促進に取り組んでいきます。

泉南市ではごみ収集の一部有料化を2008年（平成20年）より実施し、市民の努力により可燃ごみの約30%を減量しました。また、市民生活における取り組みとして、資源の再利用が定着しつつあり、再資源化を一層推進します。

泉南市は現在、光化学オキシダントの環境基準が未達成であることなどの課題を有しており、今後も従来の大気、水質、騒音などの環境保全に努めていきます。

##### **施策**

#### **1) 公害の予防**

すべての市民が快適な市民生活を営めるよう環境調査を継続するとともに、市民・事業所と協力して公害を未然に防ぎます。

#### **2) 再資源化の推進**

3R（廃棄物の発生抑制、再使用、再資源化）の普及を図るとともに、資源ごみの分別収集の徹底と市民による集団回収の促進を図ります。

#### **3) ごみ廃棄物の適正処理**

泉南清掃事務組合などの関係機関と連携しながら、処理場の効率的な運転と適切な維持管理をおこないます。

#### **②再生可能エネルギー有効利用の推進**

##### **基本的方向**

太陽光や風力は、かねてから\*再生可能エネルギーとして利用されてきましたが、東日本大震災による原子力発電所の事故、そして2012年（平成24年）7月に「再生

エネルギー特別措置法」が施行されたことを契機に、他のエネルギーとともにそのさらなる利用の促進が予想されます。

泉南市は地域特性上、太陽光利用が有利であることから、\*再生可能エネルギーの利用促進を図っていきます。

## 施 策

### 1) 再生可能エネルギーの活用

公共施設への\*再生可能エネルギーの導入など、その利用推進を図ります。